

平成 29 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 29 年 10 月 6 日（金）

開会：午後 7 時 00 分 閉会：午後 8 時 10 分

場所：筑紫集落センター

参加者：男 7 人、女 3 人 計 10 人（うち職員 0 人）

町職員：町長、副町長、建設部参事、上下水道課長、政策課員

○懇談

男性 1 員弁川の水が少なくなったのはどうしてですか。

上下水道課長 東員町も、いなべ市もそうですが、下水道整備が進んだことで、生活排水が流れない、汚れた水が川へ流れなくなっていることも要因の一つだと思います。また員弁川の水は、堆積して下で流れている部分もありますので、表面的に見えない部分もありますが、極端に減ったのは、下水の整備が進んだことかと思われま

男性 1 昔は北勢の方からいかだで下流へ物を運んでいたんでしょう。そのくらいの水量があったと思いますが。

上下水道課長 山林も収益的に成り立たないの、今は手が入れられてないんですよ。枝打ちをしないと下草を刈らないとか。農地も宅地化したり、誘致したりと減ってきているんです。本来なら雨水を保水して少しずつ流れていくものが、宅地化、舗装化されたりして、すぐ流れてしまいます。雪が積もって少しずつ流れる。雨が降っても農地で保水されて少しずつ流れるものが、宅地化されたことで、すぐに流れてしまうという、自然の変化も要因だと考えられます。これだという確信はなかなか難しいものだと思います。

男性 1 四日市市に東員町の水道を提供していますよね。それはどれだけの収入になるのですか。

上下水道課長 東員町が水を汲んで四日市市へ売っているのではなくて、四日市市が四日市市の土地から水を汲んでいます。四日市市が東員町に土地を持っていることで、東員町に固定資産税みたいなものはかかりますが、地下水の権利は法でも明確になっていませんので、その土地にあれば汲んでもいいものです。ただ、東員町を含め近隣市町は、大量に汲むのはやめましようね、協議をしましようねといった水道水源保護条例を制定しています。

男性 1 休耕地が多いように思いますが、国から決められて割り当てがあるのですか。今は農業で生活するのは難しいような気がしまして、また、機械が高すぎて難しいというような話も聞いたことがあります。

建設部参事 減反政策は平成 29 年度をもって国、県からの割り当てはきません。この減反をやめると米価は下がります。そこで、国からは割り当てはしないけれど、地域で考えてくださいという方針をとっています。このもとにあるのは、今まで国は減反政策をすることにより補助金を地方に出していました。これをいつかやめようと考えているんだと思います。国はそこまでは言うてはいませんが、今までやってきた減反政策を地方に押し付けています。我々としては、米価が下がるのは困りますので、米に代わったものを作ろうと考えています。そこで、大豆を作ろうと考えています。東員町は水田利用型の農業経営です。昭和 44.45 年から米ができすぎて減反政策が始まったわけですが、そのころから東員町は米に代わる、麦、大豆を作っていますが、この水田利用型の農業は非常に儲けが薄いんです。この儲けの薄い農業をしようとする、トラクター、コンバイン、田植え機といった機械がいります。個人の形態でやると、今は 1 町から 5 反以下の方が多のですが、続けていくとなると機械が高くて無理です。これからの農業は大規模な農業でないと水田農業では生き残っていきません。現在、東員町には認定農業者が 29 人みえますが、儲けの薄い農業ですのではなかなか後継者ができていません。東員町の 2,268ha の約 3 割の 700ha は農地です。この農地を活用してお金が儲かる仕組みを作っていかなければ、東員町の将来はないかと思えますし、これをしないと農業を続ける人はいないですし、農地は荒れていきます。もともと東員町は農業で生計をたてていましたので、この農業をもう一度よみがえらせるためには少しずつ変えていく必要があります。まずは、長深の耕作放棄地でぶどう、ブルーベリーの栽培を始め、3 年して目途がたってきましたので、これが、町に広がっていけば農業収入が上がるという考えと、もう 1 つは、減反政策で作ってきた大豆が 150ha ありますが、これは全国平均収入の 3 分の 1 で、この大豆を全国平均に伸ばすこと。また、三重県では「ふくゆたか」という大豆が 99% ですが、この「ふくゆたか」を 3 倍に増やしても、そんなに付加価値がつかないので、新しい品種を作ろうと考えています。この大豆を使った新しい製品を作っている会社が四日市市にありまして、ここで豆乳に加工しようと考えています。ここの技術が豆乳に加工する間におからがでないというものですので、大豆 100% の粉ができます。それを加工した製品を作りたいと考えています。そしてその中で、東員町に雇用を生み出し、地域循環を生み出していきたくて考えています。これを今年度から、新産業として始めています。急には難しい部分ではありますが、こういった方向を目指して頑張っていきますので、ご支援をよろしくお願いいたします。

男性 2 ミニ団地ができていますが、最近の雨は極地的に雨が降ります。ミニ団地ができてくるとコンクリートで固まり地下浸透がないんです。団地の水路はいいですが、集ま

ってきたところは整備ができていません。水路があふれてきてしまいます。団地の整備に水路の整備の費用を上乗せとかできませんか。少し貯金をしておくようなシステムができないかと思っています。団地ができれば水路を拡幅するとかできるといいと思います。

建設部参事 笹尾、城山の時は、調整池から川へという整備ができましたが、今は在来地区のミニ開発が主流です。ここについては、そこまで法的にはできません。行政として水路をとすることはできません。ミニ開発の理由もそうですが、地域を維持していくことも大事ですが、法的行為までにはなっていません。

町長 今、三孤子川はそういう状況で、三孤子川はそういう調整機能をもっています。そういう機能がある川とない川あります。長深、中上は多少の住宅開発の話がありますが、そういった調整池の機能は必要だと思っています。

男性1 北勢線の乗車券を75歳以上は子ども並の料金にすることは無理なんでしょうか。

町長 色々と三岐には話はしましたが、三岐鉄道が決めることですので、難しいとのことでした。そのときに増える乗客数と、通常の乗客数を考えて、収入が減るということで難しいとのことでした。

女性1 火事のサイレンはなぜ鳴らなくなったのですか。

町長 あのサイレンの目的は一般の方に知らせることではなくて、消防団に知らせることでした。今はメールで全部連絡できるので、サイレンを鳴らすより先に現場に着いています。サイレンについては、鳴らしてほしいという意見と鳴らさないでほしいという意見がありまして、あのサイレンの目的が消防団に知らせることでしたので、目的は達成されていますのでやめることになりましたので、ご理解をお願いいたします。

男性3 交通安全のことですが、穴太セブンイレブンのところの道路ですが、狭くなっているところに、反射鏡もありますが、3台くらい落ちていった車もありますので、どうにかならないかなと思っています。

町長 狭くなる場所から東は桑名になります。東員町側は広くしたので、桑名市に広げてくれといっても桑名にとっては、関係ないところですので、なかなか難しいかと思えます。桑名市にはまた要望していきます。

・懇談による意見

1. 員弁川の水量について
2. 減反政策について
3. サイレンについて
4. 交通安全について